

確実な診断・治療を支える

# ◆医療機器トピックス◆

最新のX線透視装置によってさらに安全に高度な手技に対応

当院の健康診断部門にはX線透過撮影システムが3台設置されており、1台は主に内視鏡の手技(胆石除去や胆管拡張術)や検査、1台は簡易的な処置に使用されています。

今回ご紹介するのは、昨年9月に導入された透視装置(日立「VersiFlex VISTA」)です。最新の透視システムにより、これまで実施してきた胃や大腸のバリウム撮影以外にも、呼吸器内科、消化器内科、小児科、外科、整形外科、リハビリ科のX線透視を利用した検査や治療を行うことができるようになりました。

鮮明な透視画像が  
確実な治療に役立ちます!



消化器内科医長  
波佐谷 兼慶

(はさたに けんけい)

専門分野 肝胆膵疾患/消化管疾患  
所属学会等

日本内科学会総合内科専門医/日本消化器病学会専門医・指導医・北陸支部評議員/日本消化器内視鏡学会専門医、指導医、北陸支部評議員、本部学術評議員/日本肝臓学会専門医/がん治療認定医/日本カプセル内視鏡学会/日本胆道学会/日本食道学会

【ひとこと】

医療の世界は日進月歩。進化に遅れないよう情報収集を怠らないように心がけています。

機器の特徴としては、55型のTV画面で映像情報(X線画像、患者様の状態、内視鏡画像、過去の検査の情報など)を選択し、リアルタイムで表示することができます。また、高精度のモニターを備えているため、細い胆管やワイヤー、チューブなどの視認性が高く、細かな手技のサポートができるのも特徴です。

X線装置という性質上、当然被ばくはありますが、機器独自の画像処理技術により、少ない被ばくで鮮明な写真を撮ることができます。医療被ばくの情報も自動で管理されています。

また、検査室には高性能な換気フィルターが設置されており、1時間あたり5回以上空気が入れ換えられ、空気感染、飛沫感染の可能性がある病原体が室外に漏れることも抑制されています。

最新装置に備えられた多くの機能を十分に活かして患者さんの治療に役立てることができるよう、これからも努力してまいります。



C型のアームが柔軟に動くことにより、多目的な検査に対応。低被ばくと高画質を両立し、これまで以上に安全かつ確かな治療を実現できます

私が機器の操作を担当しています!!



放射線技師  
嶋田 泰大

(しまだ やすひろ)



透視装置  
(日立「VersiFlex VISTA」)



常勤医10名に加え、技師や看護師など様々なスペシャリストたちが一丸となって検査・治療にあたります

## 10名の専門医と他科との連携でチーム医療を実践

当科では緊急内視鏡治療、消化器がん診療、炎症性腸疾患診療、肝胆膵疾患診療を軸として、それぞれの領域にエキスパートを揃えた診療体制を整備し、地域高度医療をリードすることを目指としています。

すべての消化器がんの治療方針については、外科や放射線科などからなる「がん診療チーム」で症例検討し、様々な治療法を組み合わせる集学的治療を行います。手術を行わない場合にはQOL(生活の質)や栄養管理に注意しながら、化学療法や化学放射線療法で予後改善をめざします。先進医療の陽子線治療に加え、平成28年には身体への負担が少ない次世代型放射線治療器をさきがけて導入しました。

がんに限らず、どんな病気でも早期発見・早期治療が肝心であり、そのためには医師が「見つけれられる能力」を持つことが重要です。当院では週1回の消化器カンファレンスと2週間に1回の内視鏡治療前カンファレンスで、各医師が確実な診断力を

養っています。今後も県内で最も確かな診断・治療ができるよう力を入れていきます。

## 症状がなくても定期的な検診で早期発見を!!

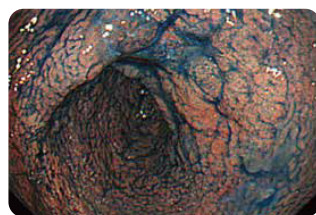
皆さんの中には検診で再検査の通知が来ても、忙しさや煩わしさで精密検査に足を運んでいない方もおられると思います。当院でも令和元年度に便検査を行った4610件中、2次検査(精密検査)を指示された方は326名。そのうち、実際に精密検査を受けられた方の受診率は58%(令和2年8月24日現在)となっています。

病気を早期発見・早期治療することは大切な臓器を残し、予後やQOL(生活の質)を良くするためにも非常に大切です。大腸がんについても早期であれば内視鏡治療や腹腔鏡下手術など、身体や生活に負担が少ない治療法を選択でき、人工肛門になるリスクも減少させることができます。気になる症状がなくてもぜひ定期的な検診と、必要があれば精密検査の受診を心がけましょう。

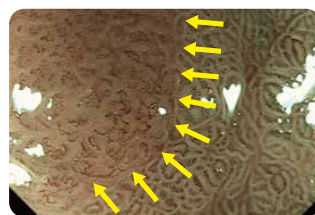
## ESD治療の経過



範囲がわかりにくい広範な胃癌病変



インジゴカルミン散布にて境界は  
かなり明瞭になった



さらにNBI併用拡大内視鏡検査で黄色矢印  
に示すがん・非がん境界が明瞭となった



切除された病変